

日加議員連盟の会長に前尾前衆院議長 両国議員間の情報交換を促進

昨年三月に結成された日加議員連盟は、五月十日、憲政記念館で総会を開き、新会長に前尾繁三郎前衆議院議長を選出した。

また、国会図書館とカナダ連邦議会図書館の間で情報交換を促進することになり、日本側から贈られる基本図書の一部が、前尾会長からブルース・ランキン大使に手渡された。

「歌う恋人」アン・マレーが来日

「スノー・バード」、「ダニーの歌」、「ラブ・ソング」などの大ヒットで知られるカナダのポピュラー歌手アン・マレーが来日した。アン・マレーは、七〇年から四年連続でカナダのレコード大賞「ジュノー賞」の最優秀女性歌手賞を受賞したほか、七二年には英国で最優秀女性歌手賞、七五年にはグラミー賞最優秀歌手賞（カントリー・ウエスタン部門）などを受け、米国CBSテレビのグレン・キャンベル・ショーにレギュラーとして



アン・マレー

出演したこともある。また一九七四年には、ヘンリー・マンシーニに認められ、ジョージ・C・スコット、フェイ・ダナウェイ主演の映画「オクラホマ巨人」の主題歌を吹き込んでいる。公演日程は五月二十九日新宿・厚生年金ホール、五月三

十一、六月一日大阪フェスティバル・ホール、三日横浜・神奈川県民ホール、四日名古屋市民会館、五日福岡市民会館、六日熊本市民会館、八日中野サンプラザホール。詳細はキョードー東京（電話四〇七七八一三二）へ。

本紙では、「私とカナダ」というテーマで、読者からの原稿を募集しています。特にカナダで生活したことのある方、現在カナダに住んでおられる方、日加関係にかかわりあっておられる方、カナダ研究をされている方などの寄稿を歓迎します。カナダでのご体験、カナダの諸分野に対するご感想やご意見、日加関係に対するお考えなどをお寄せ下さい。長さは四百字詰め原稿用紙で三枚もしくは六枚まで。採用分については薄謝を差上げます。

昨年の国際収支、五億ドルの黒字 輸出の増大などが好影響

昨年のカナダの国際収支は、貿易収支の好転や資本流入などにより、総合収支で七五年の四億四千万ドルの赤字から、一挙に五億二千二百万ドルの黒字となった。

経常収支では、米国、日本などの先進諸国の景気回復に伴い、輸出総額が前年比一四・八パーセントも増大した一方、輸入は同七・九パーセント増にとどまったため、十一億三千二百万ドルの黒字前年比は六億三千九百万ドルの赤字を記録した。これにより、貿易外収支の赤字幅が七五年の四十七億三千二百万ドルから六十億二百万ドルへと拡大したにもか

わらず、経常収支全体では赤字幅が六億三千六百万ドル縮小して四十三億二千九百万ドルとなった。

また資本収支では、カナダ・ドルが比較的強かったため、ヨーロッパ・ポンド市場などからの資本の流入（長期資本で七十五億四千八百万ドル）があつて、四十八億五千万ドルの黒字を記録した。

観光収支は十二億ドルの赤字

昨年カナダ人が海外旅行（主として米国での観光）で落した金は、海外からの旅行者がカナダで使った額を大幅に上回った。収入十九億三千万ドルに対し、支出は三十一億二千万ドルで、十一億九千万ドルの赤字。これは多くのアメリカ人が建国二百周年を迎えて国内にとどまったこと、カナダ人旅行者の一人当たり支出がおよそ二三パーセントも上昇したことが原因とみられている。

石油・ガス埋蔵量は増加の見込み ギレスピー・エネルギー大臣が報告

カナダで石油や天然ガスが大量に発見される可能性はまだある。

ギレスピー・エネルギー・鉱山・資源大臣がこのほど下院に提出した資料によると、一九七五年十二月三十一日現在でカナダの石油および天然ガスの残存可採埋蔵量（ターサンドを除く）は八十五億バレルであったが、石油およびその他の液体炭化水素は最高二百五十億バレルも存在する可能性がきわめて強い（確率九〇パーセント）。二百億バレルだと、五〇パーセントの確率。天然ガスは、残存可採埋蔵量およそ八十五兆立方フィートに対し、九〇パーセ

ントの確率で二百二十九兆立方フィートも存在するという。因みに、カナダの現在の年間需要は天然ガスが約一兆四千億立方フィート、石油が約七億三千万バレル。

人事往来

○「カナダ・セキズイ損傷者協会」訪日団（ビル・フォスケット団長ほか医師や看護婦らを含めて三十人）、四月三十日に来日。

○ジョン・ロバート文化担当国務大臣が来日。四月。

○太平洋沿岸貿易・親善使節団（団長D・R・フレージャー・バンクーバー貿易協会会長）が来日。四月。

○ニュー・ブランズウィック州のローレンス・ガービー大蔵大臣らが来日。四月。

○ジョン・H・チャップマン博士（通信省宇宙開発計画担当次官補）およびローレンス・W・モリー博士（エネルギー・鉱山・資源省遠隔探査センター所長）が日本宇宙開発委員会の招きで来日。五月。

本紙中の意見や見解は、必ずしもカナダ政府またはカナダ大使館の考え方を表すものではないことをお断りします。転載の際は出典を明らかにして下さい。なお、ご意見やご希望は左記の住所にご連絡下さい。

東京都港区赤坂七丁目三番三八号
カナダ大使館広報部